

43 名護親方と

具志頭親方（ホ）

具志頭の親方は蔡温、一方、名護の親方は大臣職。それで、二人シナに渡って勉強しとるわけですね。二人とも、勉強して、また帰って来て。

この名護の親方は和漢学者ですよ。本土にも行つてゐるんですよ。本土でも勉強しておる。この人は、シナ系ですからね、蔡温は。シナだけに行つておるんですよ。二人は対立というよりは、本当は名護の親方が頭はずつと上です。この人は政治家ではある。それで、沖縄のこの人の歌に、『誉められるのはいや。また、叱られるのもいやである』と。この世の中はですね、楽しく渡って行こうと、そういう歌を詠んだらしいですよ。ほしたら、具志頭の親方は、『誉めたり、人に叱られるのは当り前。当然のことであつて、それを拒む人が政治できるものか』と。何も役に立たないと。そういう返し言葉をやつておるですよ。そうすると、名護の親方、『天と地面では、君が主として見ておる。

影にはちゃんと映つておるよ』。鏡に映つておると。悪いことは出来ないよという意味ですよ。これは名護の親方の歌つた歌ですよ。

もつとあの人は歌、たくさん詠んでおるんですよ。

字武富 長嶺和男

類話

字豊原 金城力マド